

令和4年12月7日



向島（母島列島）での事業の確認

今回は母島の属島である向島に事業の確認に行きましたので、その様子をご紹介します。
まず上陸地点で迎えてくれたのは・・・？



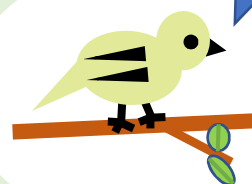
上陸お迎えありがとうございます。
カニorサンゴ？

向島では絶滅の危機にあるオガヒワ（オガサワラカワラヒワ）のための人工水場を設置しています。小さい島には安定した天然の水場が少なく、また、年々乾燥化も進んでおり、こうした補助的な取組は必要と思います。

併せてセンサーカメラを設置し、オガヒワの生息状況のモニタリングを行っています。



水場の提供助かります。



人工水場とセンサーカメラでモニタリングを行っています。

向島でも外来種の駆除を実施しています。

島への上陸が困難なため、思うように駆除が進まないのが実情です。

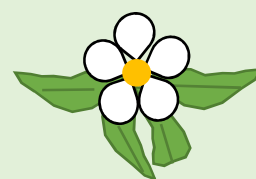
また、オガヒワが外来樹木を営巣木としている場合もあるので、外来種とはいえ慎重な駆除が必要です。



外来種のギンネム

ここからは、向島で見かけた植物を紹介します。

ムニンアオガンピの実がついていました。ムニンアオガンピは小笠原の広範囲に分布していますが、ここではオガヒワの大切な餌となっています。



ムニンアオガンピの実、
オガサワラカワラヒワが
喜びそうですね。

ムニンクロキの花が咲いていました。この種は小笠原植物図譜によればこの向島でしか確認されていない貴重なものです。



ムニンクロキの花 白くてきれいですね。

オオハマギキョウは、父島ではヤギの食害で消滅したと考えられています。芽生えてから5～6年ごろに開花し、種子をまき散らしたのち枯れてしまいます。



オオハマギキョウ

ハハジマトベラの花が咲いていました（写真では見えにくいですが）
ハハジマトベラは母島の南部とその属島に生育しています。



同じくハハジマトベラの実がついていました。



ハハジマトベラ
大きな実をつけていますね。

トピックス後記

本土ではクリスマスに近づいていますが、小笠原の気温は12月でも平均気温が20.5度もあり、本土に比べるとずいぶん暖かいのですが「夏の服装」では寒いです。

